

清水っ子

佐世保市立清水小学校 学校だより
第1号 令和6年4月11日(木)
文責 校長 井上 文典

～「本物の笑顔」かがやく清水小～

令和6年度スタートです！「本物の笑顔」をめざします！

～変化の時代だからこそ清水っ子を本物の笑顔に～

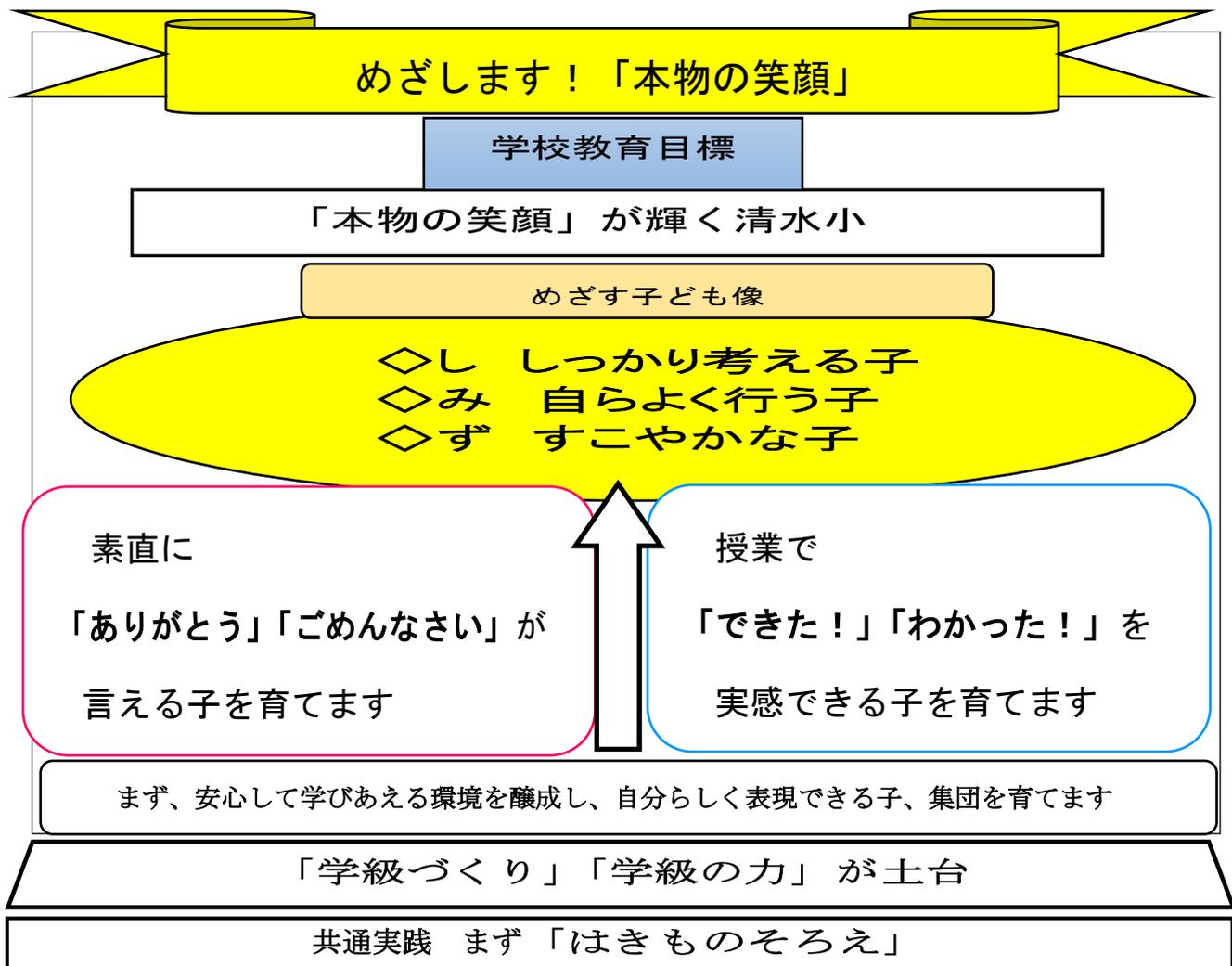
清水小の校庭には春の花が色とりどりに咲いています。そして、冬の寒さを耐え、可憐に咲く小さな花も見つけることができます。子どもたちの成長を祝ってくれているようです。そして、昨日は59名のピカピカの1年生が笑顔で入学してきました。

令和6年度、全校児童369名の「本物の笑顔」のために全職員一丸となって頑張る所存です。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

今、時代は激しく変化しています。この激動の中にあっても、清水の子どもたちが夢に向かい、自己実現を図っていくためには、やはり「生きる力」が必要です。清水小学校はこの生きる力を、学校教育目標「本物の笑顔が輝く清水小 ～しっかり考える子 自らよく行う子 すこやかな子～」のもと、しっかりと育てていきます。

校庭の木々、草花は季節ごとに美しい花を咲かせます。花によって咲く時が様々なように、子どもたちの開花、結実の時もそれぞれです。一人一人がひとつひとつ「まず、次に・・・」の順番で丁寧に取り組むこと、小さなことを身につけていくことが、それぞれの個性にあった笑顔の開花「生きる力」につながると考えています。

令和6年度、清水っ子の夢の実現、本物の笑顔のための教育を積み重ねていきます。よろしくお願いいたします。



始業式で話をしました

新しい友達、新しい担任との出会いを喜び合い、心新たに「がんばるぞ！」という表情を見ることができました。

令和6年度 一学期始業式 校長講話（一部抜粋）

いきなりですが「清水小学校の自慢はなんですか？」と聞かれたら何と答えますか？

私は、今朝、みなさんのあいさつと笑顔を見て、これは清水小学校の自慢だ！清水小学校はすばらしい！と思いました。

私の願いの一つは、まず、みなさんが自慢できることを、もっともっと胸をはって言えるようにすることです。あいさつはぜひもっともっと自慢になるようにがんばりましょう。

私は清水小学校がもっと輝くように、合言葉を考えました。それは「本物の笑顔」です。これまでも、笑顔はみなさんの自慢だったと思います。この笑顔をもっともっとがんばって本物にします。そのために今年、まずひとつ、本気で頑張ってもらいたいことがあります。それは、はきものそろえです。いつでも、どこでもはきものをそろえることができる素敵な人になってほしいというのが私の願いです。

はきものをそろえる習慣が身につけている人は自分を大切にできる人です。自分を大切にできる人は、家族やお友達も大切にできます。そして、はきものそろえができるようになった人は勉強も上手にできるようになります。これは本当です。ぜひ本気で、くせがつくまでがんばっていきましょう。「本物の笑顔」のはじめの一步が「はきものそろえ」です。はきものそろえ全員百点がずっとずっと続くようにしていきましょう。必ずできます。

そして、もう一つ願いがあります。それは、わくわくする学校をつくることです。

この願いは、先生たちの力だけではかないません。

学校の主人公である児童のみなさんが、まずは学級がワクワクするための考えをもち、そして話し合い、行動する必要があります。

まずは、みんなで学級目標を考えるとところからスタートしてください。皆さんの学級目標を楽しみにしています。

さあ、新しい学年がスタートします。

私の願いは伝えました。皆さんもこれから新しい学年、学級で目標を作るとします。ぜひ、それぞれが自分自身の目標をめざして本気で努力してください。工夫してください。そうすれば必ず本物の笑顔に出会えますよ。私は本気で応援します。

そして、1年生が入ってきます。

みなさんは先輩です。お手本です。自信をもって笑顔で迎えてくださいね。皆さんの先輩としての手本の姿を楽しみにしています。

「本物の笑顔のために」その1

「どうせ無理」という子どもの声には…



校長として、一つの言葉には敏感に反応します。

その言葉は「どうせ無理」という言葉です。

子どもたちが「どうせ〇〇」とつぶやいたときには、そばに行って「こうしてみたらどうだろう」と工夫できるポイントをいっしょに探ります。（安易に教えません）

どうせ…は思考を止めるキーワード、あきらめのスイッチです。あきらめることはいつでもできます。自分の目標に対し、あきらめるという選択肢は最後の最後までとっておく習慣を身に着けることがとても大切だと思っています。

学習はもちろんですが、スポーツや音楽なども話を聞いていきます。

子どもたちの身近にいる大人として、可能性を伸ばすために、この「どうせ〇〇」という心のつぶやきとしっかり対峙していきます。